

BCJ-SAR

ISO だより

Vol.35



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <http://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します

我が社のISO(その27)



株式会社 大谷組
代表取締役 大谷幸子

「ISO 取得後今日まで」

当社は弘化元年の創業より今日まで、約170年続いております。

歴史が古いと言うだけでは営業は厳しく、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムの運用は、現在のような情勢の中で将来に向けて更なる業績の向上と、社内体制の確立を目指すため、また、会社を取り巻く経営環境の変化への対応や、これからの会社の経営の革新のための重要な手法であると考えました。

社内のシステムをISO9001規格という、ひとつの道具により見直すことで、無駄を排除し、欠落している部分を補うこと

が出来たり、文書化により、従業員が共通のメッセージを受け取ることが出来る。さらには問題に対し、体系的な是正を行うことが出来たり、ひいては、第三者審査によるISO9001認証が、結果的に会社に対する取引上の信用評価に結びつく可能性があると思ひまして取得した次第です。

当社は2002年6月に認証を取得して以来、今日まで10年以上運用してまいりました。その当時は取得を目指して1年間計画をたて、社員一丸となって取組んだことが懐かしく思い出されます。

その頃は夢中で何が何だかさっぱり分かりませんでした。いくら基本の品質マネジメントシステムの資料を読んでも、要求事項が理解出来ず、文章が何をさしているのか大変でした。その後、何とか毎年のサーベイランスと3年目の再認証審査を受けることが出来ました。現在、3回の再認証審査を経て、第7回目のサーベイランスを終了した段階です。

少しずつの進歩のお陰をもちまして、最近ではシステムが上手く回っている感じがいたします。各帳票も速やかに提出されており、身について来ています。自分のものにするまで、やはり10年かかるものです。

ISOに基づくマネジメントシステムの運用とは、計画、実施、結果分析報告と継続的改善です。これらを常に行うことにより品質向上等の結果がついて来るの

だと考えています。

また、それぞれの段階で記録を残すことが重要です。この忙しい世の中、記録がなかったら、忘れることが多くなり、トラブル発生につながりかねません。お陰様でトラブルも少なく、記録の管理は大変効果があり、成果が発揮されています。

しかしながら、厳しい世の中になってしまい、景気が上向きにならないことによるためか、現在では ISO 認証取得が下火となり、これから取得しようとする業者が少ないように見受けられるのは、大変残念なことです。

グローバル化が進み、日本国内でやっていけなくなると海外へ進出し、世界と競争し立ち向かわなくてはなりません。その結果、国内は就職難となったり、日本の大切な技術が世界へ流出してしまったり、他国の企業に追い越されたり、日本の将来に対し、大きな不安材料となっています。

これからは、日本古来の勤勉で弛まぬ努力が、今まで以上に必要とされます。頭脳で世界をリードし、絆で団結し、尚一層磨きあげようではありませんか。

株式会社 大谷組の概要

弘化元年(1844年) 創業
 平成14年7月 ISO9001認証取得
 主な事業内容：建築物の設計、工事
 監理及び施工
 土木構造物の施工
 所在地：埼玉県深谷市

審査員の目(その31)



新井 俊昌

システム審査部 登録審査員
 JRCA登録主任審査員
 GEAR登録主任審査員

「ISO 認証取得に対する いろいろな目」

はじめに

6月の終わり頃だったと思うが、本【ISO だより】の「審査員の目」に投稿を依頼された。もうすでに多くの審査員がそれぞれの目で見たと書いているので、重複する内容もありそうで、今回はISO規格の要求事項から離れた三つの視点からISOを見た。

*

1. 経営者の目

私の仕事については、審査の仕事の他に QMS や EMS の認証取得を目指す企業のコンサルタントも引き受けている。そのコンサルタント活動の中で最近、初回審査の立ち会いをする機会があった。オブザーバーの立場での参加であるが、気持ちの上では企業経営者の立場に立って審査に臨んでみた。

審査当日のオープニングミーティングでひと通りの説明を聞くと、不適合もなく無難に審査が終わって欲しいと考えてしまう。しかし、審査が進み管理責任者や事務局の審査となると、審査員も細か

いところに質問が及び、管理責任者がたじろぐ場面も見受けられ、緊張感のある審査が続いた。そのような場面にあって経営者の立場からみると、「手順が不明な部分や運用面で不十分なところを洗い出して頂き、今後の活動に繋げればうちの会社も良くなることだろう」と期待してしまう。(苦笑い)

結局のところ、経営者としてみれば無難に審査が終って欲しいと願いながらも、審査員からは何か益になるものをプレゼントして貰わないと、審査料金を払った価値がないと思ってしまうものである。

2. エンドユーザーの目

私に限らず、ISOを認証取得している企業とそうでない企業の製品が並べられ、価格が同じで見た目にも優劣がはっきりしない場合、ISOの認証取得をしている企業の製品を買ってしまうだろう。エンドユーザーが、少なからずISO認証取得企業や、その企業の製品に期待を持ってしまうのは自然なことだと思う。

エンドユーザーとしては、期待した製品が期待どおりに役立つことは当たり前のことである。もし、「ISO認証を取得した企業の製品」ということで期待を込めて選択した製品が、期待はずれな結果を出せば、その製品や企業に対する信用は、地に落ちてしまうことは避けられない。これがもとでクレームとなり、また対応が悪いと苦情に発展する結果となってしまう。そして、今の時代は、期待倒れの情報がインターネット上の書込みとなる場合もあり、悪くすると企業存続の瀬戸際に立たされてしまう大変な時代である。

3. 審査員の目

まず、最初にオブザーバーとして審査に参加した時のことであるが、昨年と今年、立て続けに2件の審査に立ち会った。

どちらも製造業で光学系の製品や電子部品を扱っている組織で、認証機関は日本建築センター以外の認証機関であった。ここで審査をした審査員に共通したISO9001規格の解釈の誤解があった。それは是正処置の8.5.2c)の項「不適合の再発防止を確実にするための処置の必要性の評価」で、「評価の結果、是正処置をしない場合も考えられる」と解釈しているようだ。去年の審査の時は、クロージングミーティングでこの誤解を解くために、多くの時間を掛けてしまった。また、そんなことがないように2度目の審査の立ち会いの時にはISO9001規格の策定に携わった委員の解説本を持参し、その委員の名前と解説内容を見せると審査員も黙ってしまった。

審査立ち会いのエピソードはこの辺にしておいて、審査員は何処を見て審査をするのか、それは目の前で受審している企業はもちろんのこと、その企業の製品を買ってくれるお客様のことも考え、この手順でものづくりをすると良いものが出来るのか、ものづくりに役立っている要素は何なのか、ものづくりに大切なプロセスが有効に働いているか、プロセス間の繋がりに滞りはないか、そんな目で審査員は組織と関わっているように思う。

以上

■ 2012年度認証判定会議の日程は下記の通りです ■

品質、環境とも同日開催です。
当センター（東京都千代田区）にて開催致します。

2012年(平成24年)
10月24日(水) 13:30～
11月28日(水) 13:30～
12月26日(水) 13:30～
2013年(平成25年)
1月23日(水) 13:30～
2月27日(水) 13:30～
3月27日(水) 13:30～

■ 環境マネジメントシステム認証に関する「造園業」及び「機械・装置製造業」の追加について ■

さて、システム審査部では、環境マネジメントシステム認証に関しまして、公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB）から「造園業」及び「機械・装置製造業」の認定を取得し、認証業務を開始いたしました。

該当される組織様におかれましては、是非、システム審査部までご相談いただきますようお願い申し上げます。

■ 再認証を迎える組織の皆様へ ■

審査時期によっては、審査が混み合う事が予想されますので、余裕をもって再認証申請書（品質／環境）をご提出いただきますようお願いいたします。（再認証申請書の他に「申請者調査表」のご提出が必要になります。）

申請書及び調査表は一般財団法人 日本建築センターホームページよりダウンロードしていただきますようよろしくお願いいたします。（<http://www.bcj.or.jp>）



編集後記

今年は、例年になく厳しい暑さが長引き、9月後半になっても、日中は30度を超える日々が続いておりましたが、お彼岸を過ぎ、ようやく秋の気配を感じるようになりました。

審査を受けられる皆様、そして審査員にとっても活動しやすい季節の到来です。

万全の態勢で皆様にご満足いただける認証業務を提供して参りたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

